

セグメント情報／貸出金

Jimoto Holdings

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に行う対象となっているものであります。

当社グループは、主として国内において、きらやか銀行及び仙台銀行が行う銀行業務を中心に、連結子会社等においてリース業務、クレジットカード業務、コンサルティング業務及びベンチャーキャピタル業務並びに事務受託業務等を行っております。

当社グループは、「銀行業」を報告セグメントに、「リース業」は「リース業」を報告セグメントとしております。また、連結子会社等が行うクレジットカード業務、コンサルティング業務及びベンチャーキャピタル業務並びに事務受託業務等は、その金額の全体に対する重要性を考慮し「その他」に含めております。「銀行業」は主に預金業務、貸出業務、為替業務、有価証券投資業務等を行っており、「リース業」は、主に機械・器具備品等のリース取引を行っております。

2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は経常利益であります。また、セグメント間の内部経常収益は、第三者取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：百万円)

	平成28年9月期 (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	中間連結 財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	19,077	3,036	22,113	382	22,496	△ 47	22,449
セグメント間の内部経常収益	110	11	122	262	385	△ 385	—
計	19,188	3,048	22,236	645	22,882	△ 432	22,449
セグメント利益	2,685	278	2,963	91	3,055	△ 255	2,799
セグメント資産	2,504,117	18,427	2,522,544	61,546	2,584,090	△ 68,065	2,516,025
セグメント負債	2,391,188	15,254	2,406,443	59,939	2,466,382	△ 64,505	2,401,876
その他の項目							
減価償却費	1,109	7	1,117	13	1,131	—	1,131
資金運用収益	14,973	0	14,973	95	15,069	△ 74	14,995
資金調達費用	783	68	852	4	856	△ 10	845
持分法投資利益	—	—	—	12	12	—	12
持分法適用会社への投資額	—	—	—	120	120	—	120
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	940	0	941	1	942	—	942

(注) 1. 一般企業の売上高、受取利息、支払利息に代えて、それぞれ経常収益、資金運用収益、資金調達費用を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業、ベンチャーキャピタル業及び事務受託業務等を含んでおります。

3. 調整額は以下のとおりです。

- (1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△47百万円は、「銀行業」及び「その他」の貸倒引当金戻入額の調整です。
- (2) セグメント利益の調整額△255百万円は、セグメント間消去△110百万円及びのれんの償却△144百万円です。
- (3) セグメント資産の調整額△68,065百万円は、セグメント間消去△68,523百万円及びのれんの未償却残高458百万円です。
- (4) セグメント負債の調整額△64,505百万円は、セグメント間消去です。
- (5) 資金運用収益の調整額△74百万円は、セグメント間消去です。
- (6) 資金調達費用の調整額△10百万円は、セグメント間消去です。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(単位：百万円)

	平成29年9月期 (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	中間連結 財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	17,833	3,038	20,872	396	21,269	△ 44	21,224
セグメント間の内部経常収益	593	9	603	266	869	△ 869	—
計	18,427	3,048	21,475	663	22,139	△ 914	21,224
セグメント利益	2,004	113	2,118	72	2,190	△ 687	1,502
セグメント資産	2,560,819	17,225	2,578,044	55,800	2,633,845	△ 63,130	2,570,715
セグメント負債	2,444,615	14,489	2,459,104	54,089	2,513,194	△ 59,280	2,453,913
その他の項目							
減価償却費	1,062	8	1,071	13	1,084	—	1,084
資金運用収益	14,669	0	14,669	92	14,762	△ 556	14,205
資金調達費用	429	69	499	4	503	△ 14	488
持分法投資利益	—	—	—	2	2	—	2
持分法適用会社への投資額	—	—	—	112	112	—	112
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,504	5	1,510	1	1,511	—	1,511

(注) 1. 一般企業の売上高、受取利息、支払利息に代えて、それぞれ経常収益、資金運用収益、資金調達費用を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業、コンサルティング業、ベンチャーキャピタル業及び事務受託業務等を含んでおります。

3. 調整額は以下のとおりです。

- (1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△44百万円は、「銀行業」及び「その他」の貸倒引当金戻入額の調整です。
- (2) セグメント利益の調整額△687百万円は、セグメント間消去△542百万円及びのれんの償却△144百万円です。
- (3) セグメント資産の調整額△63,130百万円は、セグメント間消去△63,299百万円及びのれんの未償却残高169百万円です。
- (4) セグメント負債の調整額△59,280百万円は、セグメント間消去です。
- (5) 資金運用収益の調整額△556百万円は、セグメント間消去です。
- (6) 資金調達費用の調整額△14百万円は、セグメント間消去です。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

リスク管理債権額（連結）

(単位：百万円)

	平成28年9月期	平成29年9月期
破綻先債権額	1,279	751
延滞債権額	39,701	34,598
3カ月以上延滞債権額	—	—
貸出条件緩和債権額	4,280	3,357
合計	45,261	38,707

(注) 1. 破綻先債権とは、未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

2. 延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金の未収利息の収益計上基準については、資産の自己査定の結果に基づき、「破綻先」、「実質破綻先」及び「破綻懸念先」に対する貸出金の未収利息を税法基準に拘わらず不計上としております。

4. 3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。